

子どもの読書活動を推進するために

～とよはしの未来を担う子どもたちの提言～



平成 22 年 8 月

豊橋市の子ども読書活動を考える子ども会議

は じ め に

わたしたちは、小さい頃おとうさんやおかあさんにいつも絵本を読んでもらいました。そして本を読む楽しさを覚え、いろいろな本に興味を持ち、自分でも学校や図書館で本を借りて読むようになりました。

本を読むと、ときどき、わくわくしたり、感動したりします。また、自分では考えつかないような楽しい場面が浮かんで来て、創造力がとても豊かになります。学校では長い文章を読むことが平気になり、むずかしい言葉の意味や漢字を覚えることもでき、わからないことがあっても、まず自分で調べる習慣がつかしました。

でも、わたしたちは本を読むことがとても大切なことと思っているのに、本をあまり好きではない友だちもいて、大きくなるにつれだんだん本を読まなくなっているようです。

そこで、わたしたち子ども会議の委員 15 名は、「子どもの読書」をテーマに4回の会議を開き、どうしたらみんながもっと本を読むようになるのか、わたしたちに何ができるのかを考えてみました。

子ども会議でわたしたちがまとめた意見が活かされ、みんなが本をたくさん読むようになってもらえればと願っています。

平成22年8月

豊橋市の子ども読書活動を考える子ども会議 委員一同

豊橋の子どもたちが本をたくさん読むようになるために次のことを提言し、また、自分たちも心がけます。

(1) 家庭では

わたしたちは、学校で朝読書の時間を利用して本を読んでいます、それ以外では部活動や習いごとなどがあるため忙しく、またテレビやゲームなどやりたいことも多いため、なかなか家で本を読む時間がありません。

読書が好きだという人に聞いてみると、「小さい頃から両親に読み聞かせをしてもらった」「兄妹の本を読んだら面白かった」など、家族がきっかけになったケースが多くありました。読書に興味や関心を持つためには、家族みんなで読書を楽しみ、本に慣れ親しむ環境を作ることの方が何よりも大切であり、本について語り合うなど、家庭の役割がとても重要になります。

【 提 言 】

◆家庭や地域で小さい頃から本に親しむことのできる環境をつくること

- 子どもに読み聞かせをしたり、図書館に連れて行ったりして、
幼い頃から本にふれる機会を多くする。
- 身近な場所にいつも本があることが一番大切なので、家に読み
やすい本を置いておく。
- 家族で読書する日や時間をつくる。
- 入園前の幼児向けの読み聞かせなど、市民館などで行うおはな
し会を増やす。

－わたしたちが心がけること－

- ◎自分の自由時間の楽しみ方を見直して、テレビを見たりゲーム
をしたりする時間を減らします。
- ◎わからないことがあったら、パソコンに頼らず辞書を引いたり
本を読んだりしてなるべく自分で調べます。
- ◎本が苦手なので、映画やテレビドラマの原作などの自分が興味
のあるストーリーやイラストの多い本から読んでみます。

(2) 学校では

授業が始まる前に読書をする「朝読書」が行われ、学校図書館がきれいになり、司書の人がいる学校も増えていることから、ほとんどの人は学校で読書をしています。でも、学年が上がるにつれて本を読まなくなり、本を読む人と読まない人との差もだんだん広がっています。

学習の基本となる読書について、まず自分たちが興味を持って本を好きになり、本を読むことの大切さを理解しないとなかなかその習慣はつきません。そのためにも学校の役割は非常に大きなものであり、わたしたちにとって一番身近な学校図書館がもっと良くなり、利用しやすくなることで、読書の楽しさや大切さが伝わっていくと思います。



【 提 言 】

◆子どもたちが一番使う学校図書館をもっと利用しやすくすること

- 学校図書館にみんなが興味のある本をたくさん置く。
- 休み時間や放課後には、いつでも本を借りられるようにする。
- 新しい本や自分たちが読んだおすすめの本の紹介を、学校図書館の目立つ場所に掲示する。
- 気軽に使える学級文庫に、自分たちのおすすめの本を増やす。

◆学校で読書の大切さを子どもに伝えること

- 学校の読書タイムをもっと増やす。また、読書タイムで図書委員がおすすめ本の紹介をする。
- 学校の行事として、まるで遠足に行くように図書館に行き、そこで本を読んで感想文を書く。

－わたしたちが心がけること－

- ◎自分が読んでおもしろかったと思う本を、友だちに教えてあげます。
- ◎友だちにも読んでほしい本を、学級文庫に持っていきます。
- ◎夏休みなど長い休みの前には、必ず学校図書館で本を借ります。
- ◎友だちと1か月の読書目標をたてて本を読みます。

(3) 図書館や市民館では

図書館や市民館は、小さい頃から親子で読書を楽しめる場所であり、多くの本の中から自由に読みたい本を選ぶという楽しさが味わえる場所です。

でも、自分の時間がなくなるにつれて図書館を使わなくなり、特に図書館が近くにない人や、家族があまり図書館を利用しない人は、図書館に行くことが少なくなるようです。

また、インターネットによる本の予約、近くの市民館での受け取りや返却ポストなど、図書館の便利な利用のしかたを知らなかった人が多くいました。

子どもの読書活動を進めていくのに中心となる図書館では、子どもたちが本を読みたくなるような工夫をし、もっと利用しやすくすることと、その取り組みをみんなに紹介していく必要があります。

【 提 言 】

◆子どもたちが読む本を充実させ、もっと利用しやすくすること

- 主人公が子どもの物語やケータイ小説などを増やす。
- どんな本を増やしてほしいかアンケートをとり、意見を反映する。
- 1回あたりの本の貸出冊数を増やす。また、貸出期間中に読み終わらなくても、延長の手続きが簡単にできるようにする。
- ゆっくり本が読める場所を増やす。
- 多くの市民館で、図書館の本を予約したり、受け取ったりできるようにする。
- 図書館が遠い人のために、市民館の本を増やしたり、移動図書館を行ったりする。

◆本を読む子どもが増えるような工夫をし、多くの取り組みをPRすること

- 本に興味を持ってもらうため、本をながめたり手にとってみたいできるように、表紙を見せて本を置く。
- 古くなった本を交換したり、欲しい人にあげたりするイベントを増やす。
- 本の予約ができたり、調べものの手伝いをしてくれたりすることなど、図書館でできることをもっと紹介する。

－わたしたちが心がけること－

- ◎読んだことのない作家や、“一度読んでみたいな”と思う本はまず図書館で借りて読みます。
- ◎夏休みの自由研究など、図書館の資料で調べながら自分でやります。



参考資料

豊橋市の子ども読書活動を考える子ども会議 委員名簿

11

開催経過

豊橋市の子ども読書活動を考える子ども会議 委員名簿

（平成22年8月現在）

○ 小学生委員

* 敬称略

学 校 名	学年	氏 名
松 葉 小 学 校	6年	すぎ 杉 うら 浦 よし 義 き 基
花 田 小 学 校	6年	すず 鈴 き 木 れい 伶 ら 来
松 山 小 学 校	6年	の 野 じり 尻 こう 康 すけ 介
羽 根 井 小 学 校	6年	もり 森 した 下 あや 綾 か 香
吉 田 方 小 学 校	6年	むら 村 まつ 松 りょう 良 ま 真

○ 中学生委員

学 校 名	学年	氏 名
中 部 中 学 校	3年	かみ 神 や 谷 あき 明 え 江
豊 城 中 学 校	3年	ほん 本 だ 田 たつ 達 ひろ 大
羽 田 中 学 校	3年	ひ 日 び 比 り 里 さ 彩 こ 子
牟 呂 中 学 校	3年	おお 大 にし 西 はや 逸 と 人
南 部 中 学 校	3年	さか 坂 わ 輪 もえ 萌 こ 子

○ 高校生委員

学 校 名	学年	氏 名
豊 橋 高 等 学 校	3年	よし 吉 い 井 ゆ 佑 り 莉
豊橋中央高等学校	3年	やま 山 ぐち 口 めぐ 恵 み 実
豊橋商業高等学校	3年	すぎ 杉 うら 浦 まど 円 か 花
豊橋工業高等学校	3年	かな 金 もり 森 ふみ 文 あき 亮
豊橋南高等学校	2年	おお 大 の 野 み 未 か 佳

豊橋市の子ども読書活動を考える子ども会議 開催経過

第1回 平成22年3月27日(土) 豊橋市中央図書館 集会室

- 委員の委嘱
- オリエンテーション 「豊橋市の図書館について」
- 講演 テーマ「本の魅力、本の力」
講師 地宗 一郎氏(前教育長)
- これからの予定について

第2回 平成22年4月24日(土) 豊橋市中央図書館 集会室ほか

- 子ども読書活動推進計画の概要について
- 意見交換(小学生グループ、中・高校生グループ)
テーマ 「子どもたちの読書のようすについて」
- グループのまとめ

第3回 平成22年5月29日(土) 豊橋市中央図書館 集会室ほか

- 第2回会議の意見発表
- 意見交換(小・中学生グループ、高校生グループ)
テーマ 「本を読んでよかったこと」
「どうしたら子どもたちが本を読むようになるか」
- グループのまとめ

第4回 平成22年7月10日(土) 豊橋市中央図書館 集会室ほか

- 第3回会議の意見発表
- 提言書作成に向けたまとめ
- 意見交換
- 総括